

所管説明

○県教委

「山口県の地域連携教育の推進について」

- ・山口県の地域連携教育とは山口県の地域連携教育とは
- ・「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて
- ・取組推進上の具体的な手だて



○市教委

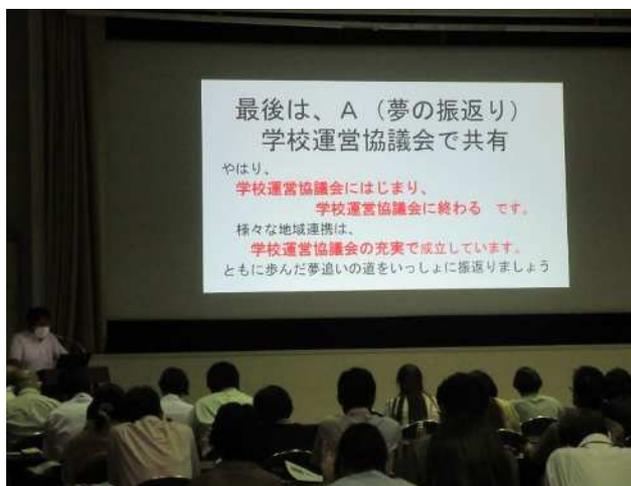
「本年度の3つの柱と8つの重点項目について」

「地域学校協働活動の推進について」



講義

「地域コーディネーターとともにつくる地域学校協働活動の推進」



## ○参加者の質疑応答

Q コロナ感染症流行下で、地域の方々に協力をお願いしていくコツはあるか。

A 頻繁な情報発信

マンパワー発信：ボランティアさんの『楽しかった！』という声が有効な発信となる。

Q 大規模校でも実践することはできるか。また、PTA の参加の状況は？

A 大規模校での実践経験もある。その時は、2人コーディネーター制をとって進めた。

PTA とは何度も何度も話し合いをしていった。

大規模校では難しかった経験もある。とにかく語り合うことが大切。

大規模校でも、コーディネーターとともにうまく回り始めると爆発的な力が生まれる。

Q 地域コーディネーターの数は美祢市で決まっているのか。学校ごとに決めてもいいのか。

A 市としては1人となっている。あとの3人は学校独自でお願いしている。1人では寂しい。語り合える方がいた方が良さだろう。

A (市教委)宇部市では、コーディネーター役は複数いても構わないと考える。そのうちの代表的な方を地域学校協働活動推進員として委嘱すると考えている。リーフレットの推進図にそのような考え方を示している。

Q 地域コーディネーターがいた方が良いか。美祢市がうらやましい。

A 地域コーディネーターとしての役があるから学校に入れる。

Q 川での活動例があったが、学校のカリキュラムに位置付けられているのか。

A 2年生の生活科の学習として位置付けている。カリキュラムは年々リニューアルしている。